

1. 地球環境の現状と課題

・持続可能な社会に向けた取組④(自然共生社会について)

21世紀環境立国戦略

新・生物多様性国家戦略(平成14年3月地球環境保全に関する関係閣僚会議決定)

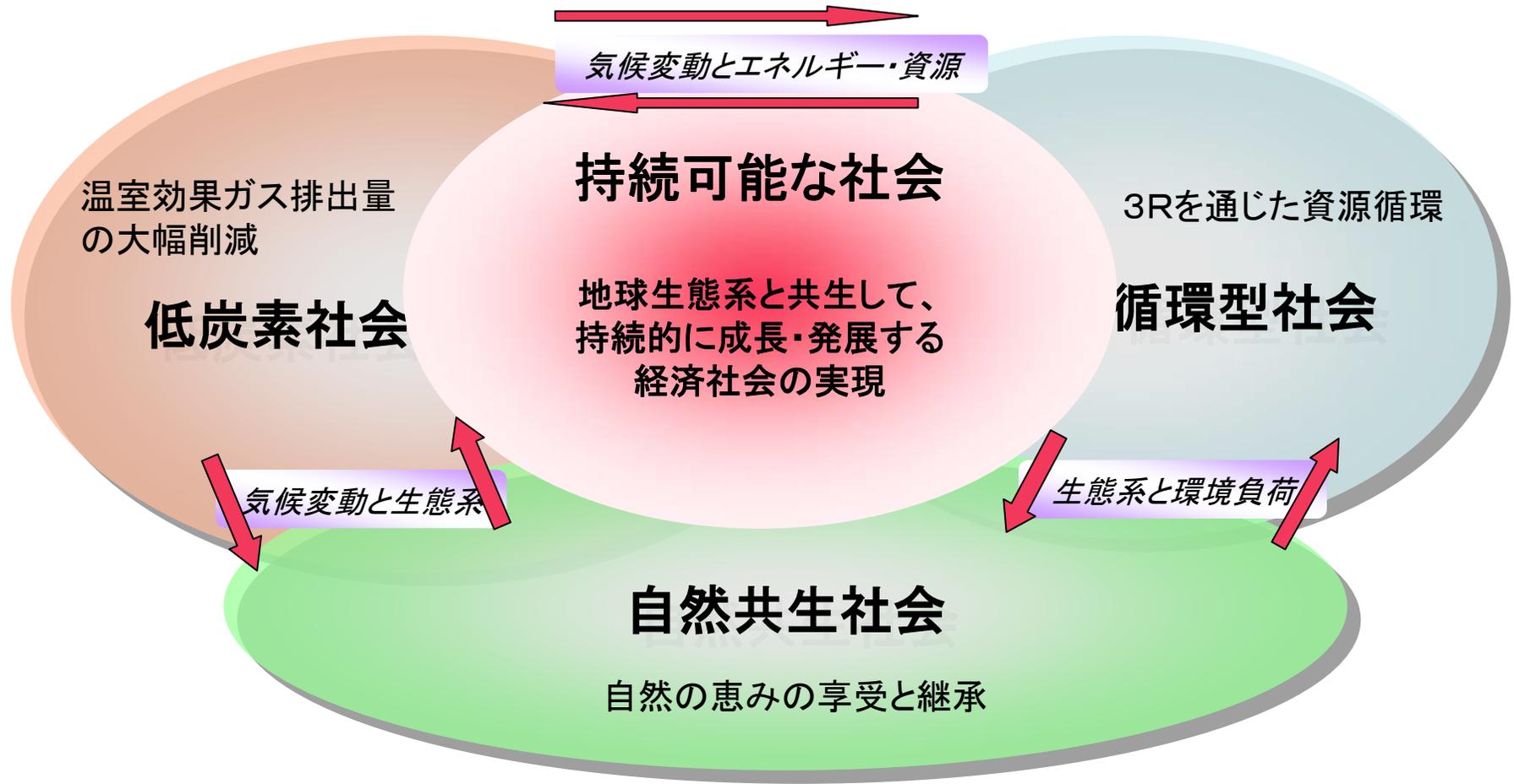
国土空間における人間と自然の関係についての基本認識・基本方向

- 自然を優先すべき地域として奥山・脊梁山脈地域、人間、人間活動が優先すべき地域として都市地域があり、その中間に人間と自然の関係を新たな仕組みで調整されるべき領域として広大な里地里山・中間地域が広がっている。
- これまで生物多様性保全への寄与を必ずしも意図していなかった、道路、河川、海岸などの整備を、国土における緑や生物多様性の、縦軸・横軸のしっかりとしたネットワークと位置づけ、奥山、里地里山、都市を結ぶ。
- 住民・市民が、自らの意志と価値観において生物多様性の保全・管理、再生・修復に参加し、生物多様性がもたらす豊かさを享受し、また、そうした行動を通じて新しいライフスタイルを確立する。



1. 地球環境の現状と課題

・持続可能な社会に向けた取組⑤(統合的取組の展開 I)



持続可能な社会に向けて、各社会の実現を目指す取組を統合的に展開し、自然との共生を図りながら、人間社会における炭素も含めた物質循環を自然、そして地球の大きな循環に沿う形で健全なものとし、持続的に成長・発展する社会の実現を図る